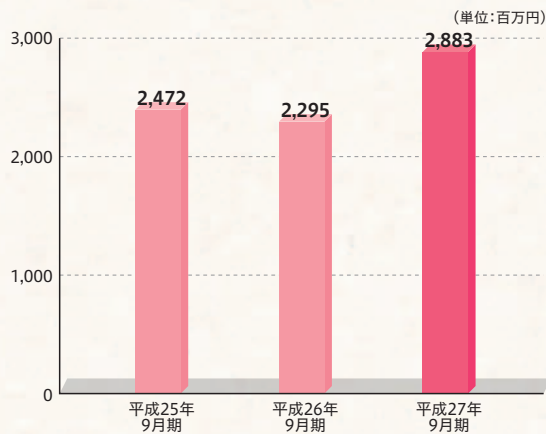


業績ハイライト（単体）

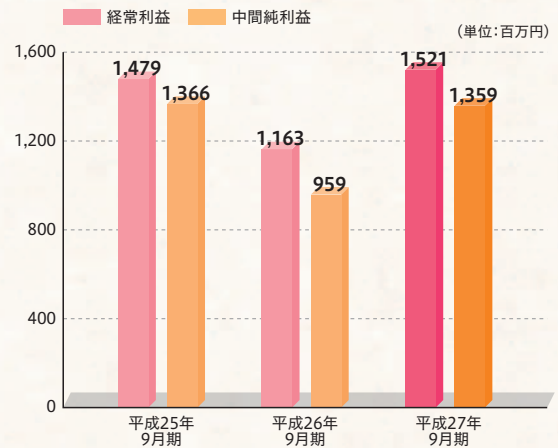
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや、更なる経費削減に努めた結果、物件費が減少したことなどから、前年同期比5億88百万円増加の28億83百万円（増減率25.6%）となりました。



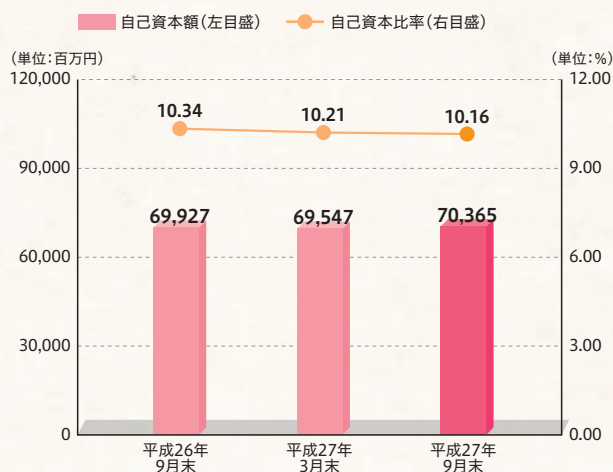
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は前年同期比3億58百万円増加の15億21百万円、中間純利益は前年同期比4億円増加の13億59百万円となりました。



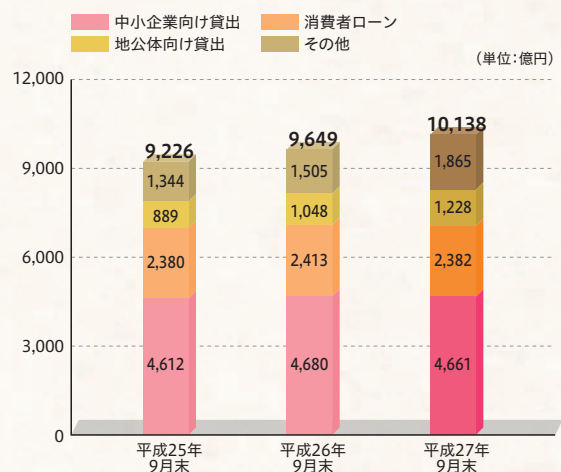
自己資本比率の状況

自己資本比率は、中間純利益を13億59百万円計上し、自己資本額（分子）が増加しましたが、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット（分母）が増加したことなどから、平成26年9月末比0.18ポイント低下の10.16%となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、市場性ローンや地方公共団体向け貸出が増加したことなどから、平成26年9月末比488億91百万円増加の1兆138億4百万円となりました。

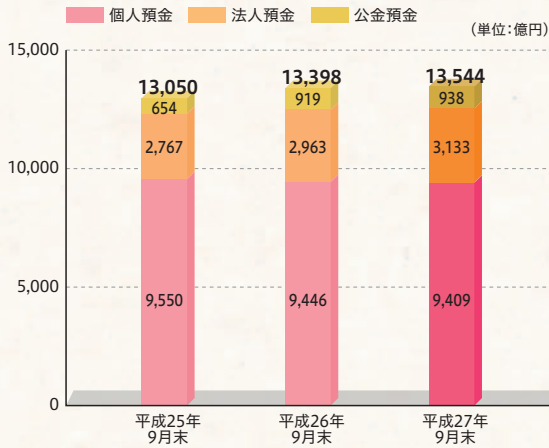


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

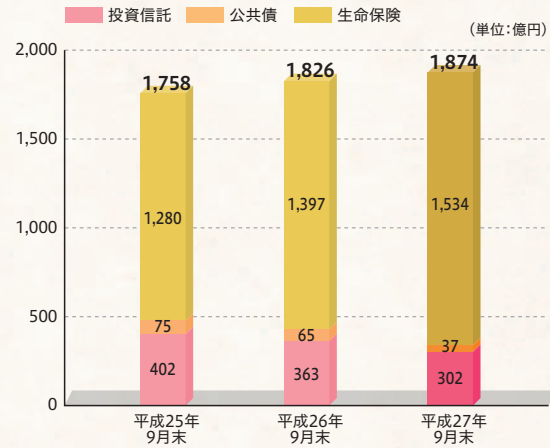
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、個人預金が減少したものの、法人預金及び公金預金が増加したことから、平成26年9月末比146億円増加の1兆3,544億3百万円となりました。



預かり資産の状況

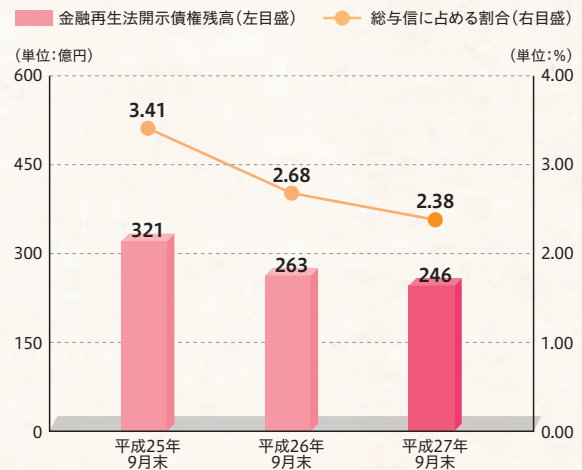
預かり資産残高は、安定志向にあるお客様ニーズの取込みなどにより生命保険残高が増加したことなどから、平成26年9月末比47億41百万円増加の1,874億15百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成26年9月末比17億50百万円減少の246億22百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成26年9月末比0.30ポイント低下の2.38%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



- 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
- 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。